



# つながり

～やさしく かしく たくましく～

第6号  
令和5年12月15日発行



山口大学教育学部附属幼稚園

## 「附属幼稚園らしさ」を活かして

副園長 高田和宜

運動会を楽しんだ9月からあつという間にクリスマスを待つ年末になったという印象です。11月には幼小一貫教育保育・授業づくり研修会を実施し多くの方に保育を見ていただきました。参観者からたくさんのお言葉を頂きました。その多くは、どの子どもたちも自由でのびのびとしている印象、自分がやりたい遊びに夢中になって取り組み楽しんでいる姿への評価、園児の作品や遊びで身に付けているもの（お面や衣装）や遊びで使っている道具（くじ屋の商品や乗り物、段ボールの家など）からそれぞれが思いをもって粘り強く取り組んでいるのが分かるといった内容でした。また、年長児のダンスショーでは、踊る子どもだけでなくショーを裏方で手伝う子ども、参観者へのインタビューなどそれぞれが自分の脈絡をもってかわり、協動的に取り組んでいた姿がすごいといったお話もありました。保育者への印象として、どの保育者も大きな声を出して子どもたちに指示を出して動かしていないことへも関心が向けられていました。子どもたちがその年齢なりに自分たちで主体的に遊びや生活をしていることを感じていただけたようです。

以前附属小学校へおられた先生方も複数保育を見に来られていました。今は小学校の校長先生になられて幼小連携に取り組んでおられる方は、「複数の園を見てきたが、附属幼稚園は本当に質の高い保育をしていることが今になってよく分かる。附属山口小にいたときにもっと来て見ておけばよかった。」と話に来てくださいました。今は行政におられ、幼小接続・幼児教育を担当されている先生は、「人事交流で附属幼稚園に勤めたい。」と立候補していただきました。公開保育に多くの小学校の先生が参観に来られたのには、公立の学校においても「幼小連携」「幼小接続」の推進がされている中で、「幼児教育」への関心が向けられていることを感じました。

手前みそ的になってしまいましたが、定員割れしている現状にもかかわらず、保育内容では幼児教育関係者からの評価が高いのが附属幼稚園です。二十年以上附属で保育をしてきた職員はほぼ退職し、世代交代で若い職員中心に進んでいますが、山口大学教育学部附属幼稚園の「らしさ」は子どもたちの遊びの文化と共に継承されていることを誇りに感じます。外部評価だけでなく、内部評価も上がり地域の子育て世代から注目されるよう発信していきたいと思えます。来年度から「預かり保育」も実施されます。保護者の皆様からも勧誘のご協力いただければと思います。

年末に学校評価のアンケートも実施いたします。子どもの育ちにとってより良い幼稚園となるよう、忌憚のないご意見、評価をお願いいたします。